



平成 27 年 6 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムホールディングス  
代 表 者 名 代表取締役社長 森 豊隆  
(コード番号 2372 東証第一部)  
間 合 せ 先  
役 職 取締役 社長室長  
氏 名 谷田 洋平  
電 話 03-3264-3148

## 当社子会社のセンダイウイルスベクターを用いた iPS 細胞作製技術 に関する中国における特許取得のお知らせ

当社子会社の株式会社 ID ファーマ(以下、「ID ファーマ」という)は、センダイウイルスベクター<sup>※1</sup>を用いて iPS 細胞<sup>※2</sup>を作製(細胞をリプログラミング)する方法に関する技術(以下、「本 iPS 細胞作製技術」という)について先の米国・日本(平成 27 年5月 25 日付「当社子会社のセンダイウイルスベクターを用いた iPS 細胞作製技術に関する米国並びに日本における特許取得のお知らせ」ご参照)に続き中国において特許(査定)を取得しましたのでお知らせいたします。

ID ファーマは、本 iPS 細胞作製技術を用いて、既に iPS 細胞作製キット<sup>※3</sup>(以下、「CytoTune®-iPS」という)を開発し、研究用試薬として全世界で販売するとともに、臨床用 iPS 細胞作製のための CytoTune®-iPS の製造を開始し、大手製薬企業にも実施許諾しています。

一方、中国における iPS 細胞作製技術の研究は、京都大学の山中伸弥教授らのグループの手法を使用して政府系研究機関を中心に進められており、昨年から ID ファーマの CytoTune®-iPS の中国での販売量が急速に伸びています。

今回の特許取得によって本 iPS 細胞作製技術の、中国での優位性が強化され、それによって ID ファーマの事業拡大に資することが期待されます。

### 記

#### 1. 特許の内容

今回取得した特許の名称・国際出願番号・内容・対象国並びに存続期間・他に出願している地域は次のとおりです。

名称	染色体非組み込み型ウイルスベクターを用いてリプログラミングされた細胞を製造する方法
国際出願番号	PCT/JP2009/062911
内容	細胞のリプログラミングにおいてセンダイウイルスベクターを利用して遺伝子を導入するための方法を提供する。
対象国並びに 存続期間	中国(2029年7月15日まで)
他に 出願している 地域	特許(査定)取得: 米国・日本 出願中: 欧州など

## 2. 業績に与える影響

本決定による当期の業績への影響は軽微と見込んでおります。また、当期の業績予想に変更はありませんが、変更が生じる場合は、速やかにお知らせいたします。

### ※1. センダイウイルスベクター

治療用の遺伝子を特定の臓器・組織に運搬し、効果的に標的細胞内へ導入する働きを持つ物質のことです。その中でも、当社が独自に開発した「センダイウイルスベクター」は、従来のベクターとは全く概念が異なり RNA を骨格とするもので、臨床研究や動物実験を通じ安全性の高さが確認されている他、遺伝子医薬品やバイオ製品分野での利用に高い信頼性と実績を有しております。

### ※2. iPS 細胞

Induced Pluripotent Stem Cell(人工多能性幹細胞)のことであり、体細胞に特定の遺伝子を導入することにより樹立される、ヒト等の動物のあらゆる組織、細胞に分化する能力を持つ幹細胞のことです。

### ※3. iPS 細胞作製キット「CytoTune®-iPS」

CytoTune® -iPS は、京都大学の山中伸弥教授の iPS 細胞作製に関わる因子と、ID ファーマのセンダイウイルスベクター技術を融合させて開発した iPS 細胞誘導キットであり、本キットを用いることにより、一回のベクターの使用で線維芽細胞などの体細胞から iPS 細胞を効率よく誘導することができます。特にヒトに大きな苦痛を与えずに採取できる末梢血・血液細胞からの効率的な誘導が可能であり、他の方法と比べて優れた性能を有していると考えられています。さらに本キットを用いて作製された iPS 細胞は、元の細胞の染色体上の遺伝子配列を無傷にそのまま維持しており、また iPS 細胞誘導に用いたベクターも残らないため、国内外の研究者から高い評価を受けております。

以上